

平成15年度

広域ドライブ観光に関する総合的道案内システムの実験

報告書

(概要版)

後志観光連盟

目 次

1 . 実験の目的と概要	
1 - 1 実験の目的	1
1 - 2 実験のフレーム	1
2 . 実験の取り組み内容	
2 - 1 情報ステーション (i センター) 運用実験	4
2 - 2 情報共有・提供ツール (しりべし i ネット) の運用実験	6
2 - 3 地域体制構築実験	9
2 - 4 官民協働体制構築実験	11
2 - 5 広報・告知活動	15
2 - 6 実験効果の検証	16
3 . 今後の課題と方向	
3 - 1 実験成果のまとめ	19
3 - 2 今後の事業継続の方向	22

1 . 実験の目的と概要

1 - 1 実験の目的

後志地域は、小樽・積丹・ニセコ・羊蹄などの人気観光スポットを有し、札幌市や新千歳空港から概ね 100km 圏に位置する立地条件も相俟って、道内外からの観光入り込み数が全道一位で推移しており、地域経済にとっての観光振興は重要な位置を占めている。

特に、後志地域においては、札幌圏からの地理的条件や連続的に附存する観光資源の状況などから旅行者のほとんどが自動車利用者であり、ドライブ観光客の誘致促進に必要な不可欠な快適なドライブ環境の創出のため、次の課題解決が望まれている。

道路、交通、運輸、観光を担う各行政機関がドライブ観光を振興するための統一的な施策がない

ドライブ観光に必要な行政情報（道路、気象、交通など）が分散的に提供されている
道の駅など情報提供ステーションにおける情報提供機能（人や機材）の不足

ドライブ観光に欠かせない休憩休息施設に関する情報提供不足

地域住民との協働による有効な情報提供手法の不足

本実験は、以上のような課題に応えるため、ドライブ観光の快適性の向上のために必要な案内機能と情報提供機能の高度化と、それを実現するための官民協働体制の確立の有効性を検証することを目的とし、昨年度に引き続き実施するものである。

1 - 2 実験のフレーム

本年度の実験では大きく次の4つの具体的な実験項目を設定し、その有効性の検証を行うものである。

(1) 情報提供ステーション（iセンター）機能の向上とそのネットワーク化

観光客に地域情報を提供するための案内拠点となるiセンターを開設し、それをネットワーク化させ情報の共有化を図るものとする。具体的には、情報提供用資機材の導入による案内機能の充実とともに、研修会の実施による案内者の資質向上を図り、この運営によるドライブ観光におけるiセンターの有効性を検証する。

iセンターのネットワーク化による情報提供機能の充実
情報提供用資機材の導入によるiセンターの機能の拡充
研修会・交流会の実施による案内窓口スタッフの資質の向上

(2) 総合的な情報共有サイト(しりべしiネット)の構築と運用

後志独自の情報共有のための総合的な情報サイト(しりべしiネット)を構築・稼働させる。具体的には、地域情報をリアルタイムに反映できるシステムを構築するとともに、地域情報と公的情報を融合するシステムを開発し、ドライブ観光客への魅力的な地域情報と公的情報を提供する。これにより、地域における情報共有ならびに地域情報と公的情報を融合の有効性を検証する。

後志全体を網羅した総合的な情報サイト(ポータルサイト)の構築

20市町村からの地域情報の発信

関係機関からの公的情報の発信

(3) 以上を支える地域体制の構築

iセンターやしりべしiネットを効率的かつ恒常的に運営するためには、地域住民の声を直に反映させる仕組みとともに、各iセンターと一体となってしりべしiネットの円滑な運営を行い、iセンター相互の連絡調整を担う組織体制が用意されなければならない。そのため、本年度は地域組織(iセンター運営会議)の設置促進を図るとともに、これらを統括する全体組織(iセンター連絡会議)を立ち上げ、実際の情報収集作業、連絡調整作業を通じて、組織の有用性とその持続的な体制構築が可能かを検証する。

地域内における情報発信体制の構築

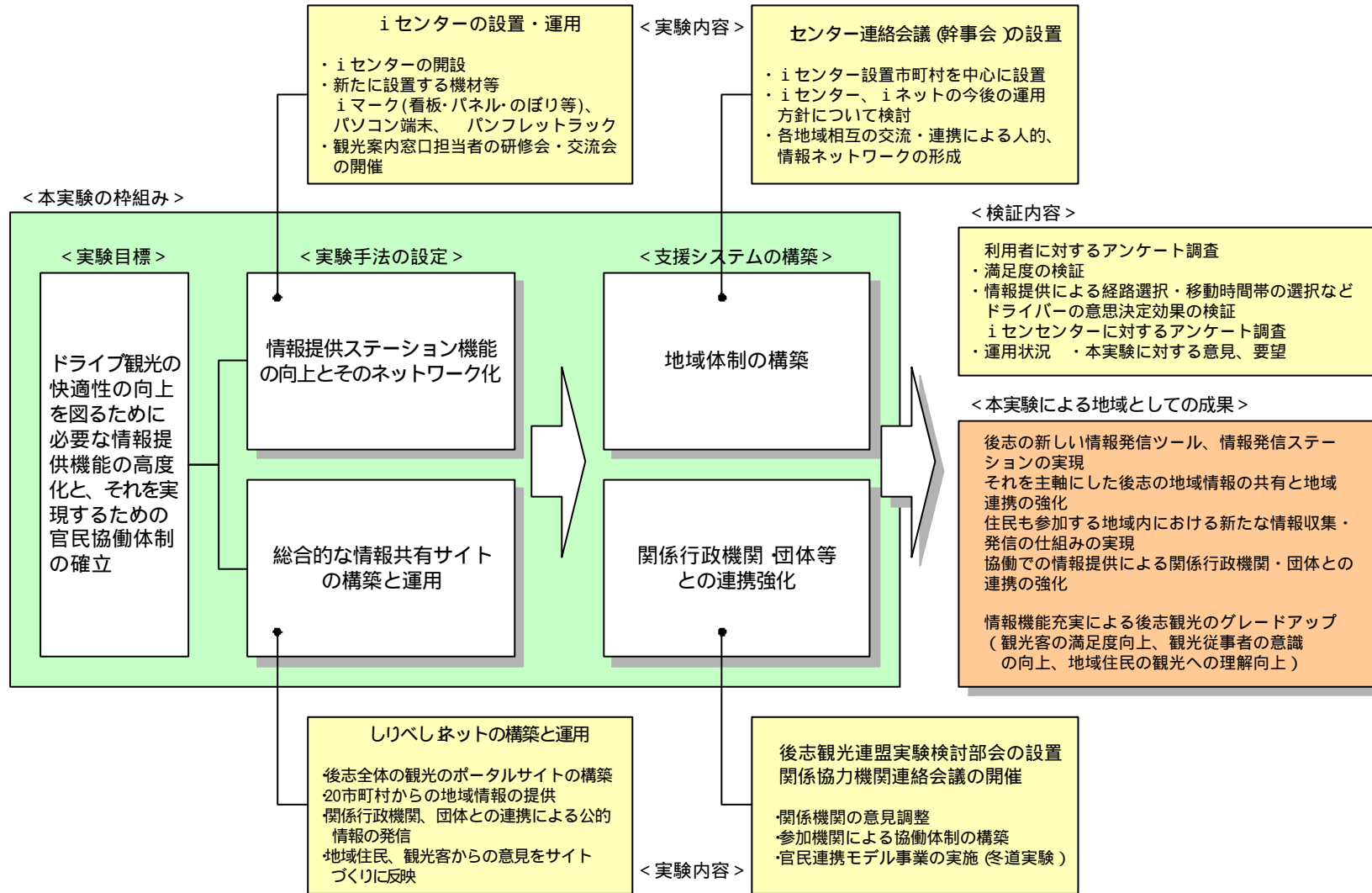
地域の検討体制(iセンター運営会議)の設置と管内市町村の連携強化

(4) 関係行政機関との連携強化による官民協働体制の構築

iセンターが提供する地域の情報と、交通情報、道路情報、気象情報などの公的機関が提供する情報を融合させるため、全体的な検討体制(検討部会)の設置とともに、これらの連絡調整や官民協働による情報提供を通じて、持続的な協働体制の可能性を検証する。

関係機関・団体との連絡調整

官民協働による情報提供



【広域ドライブ観光における総合的案内システムの実験のフレーム】

2. 実験の取り組み内容

2-1 情報ステーション（iセンター）運用実験

(1) iセンターの開設と運用

小樽市、余市町、積丹町、岩内町、ニセコ町、黒松内町、喜茂別町の7市町においてiセンターを開設し、現地での情報提供・案内業務を開始した。



【iセンターの設備】

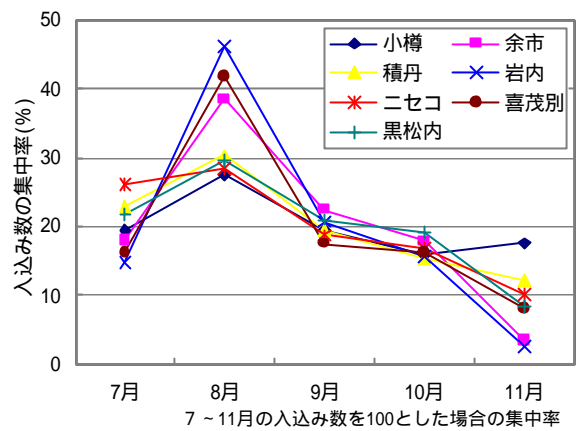


【iセンターの入込み数】

各iセンターの7~11月の入込み数(人)

iセンター	H14年度	H15年度
小樽	258,060	269,310
余市	-	6,183
積丹	12,480	13,298
岩内	59,226	67,593
二セコ	360,500	421,700
喜茂別	-	24,166
黒松内	99,713	112,287

余市・喜茂別は7月20日~11月3日までの入込数
 余市・喜茂別以外は道の駅や観光案内所全体の入込数



(2) 新規iセンターの追加

来年度から、赤井川村、真狩村、倶知安町、蘭越町の4町村において新規iセンターが開設、案内業務を開始予定。

2 - 2 情報共有・提供ツール(しりべしiネット)の運用実験

(1) 後志の総合サイト(ポータルサイト)となる「しりべしiネット」の構築と運用

【しりべしiネットのコンセプト】

利用者に向けて

地域が主体となって作成する地域だより

- ・地域の旬の情報をHPから発信することにより、後志地域をより魅力的にPR
- 地域だよりをベースとした後志観光の再発見**
- ・地域だよりで、後志20市町村のイベント、お勧め観光スポットなどを提供し、各市町村の隠れた魅力ある情報提供、周遊観光に向けた情報の提供

地域情報と公的情報を融合させた仕組み

- ・地域情報と道路情報(通行止め、天気、交通状況など)を提供し、安全で快適な周遊観光に向けた情報の提供

iセンタースタッフに向けて

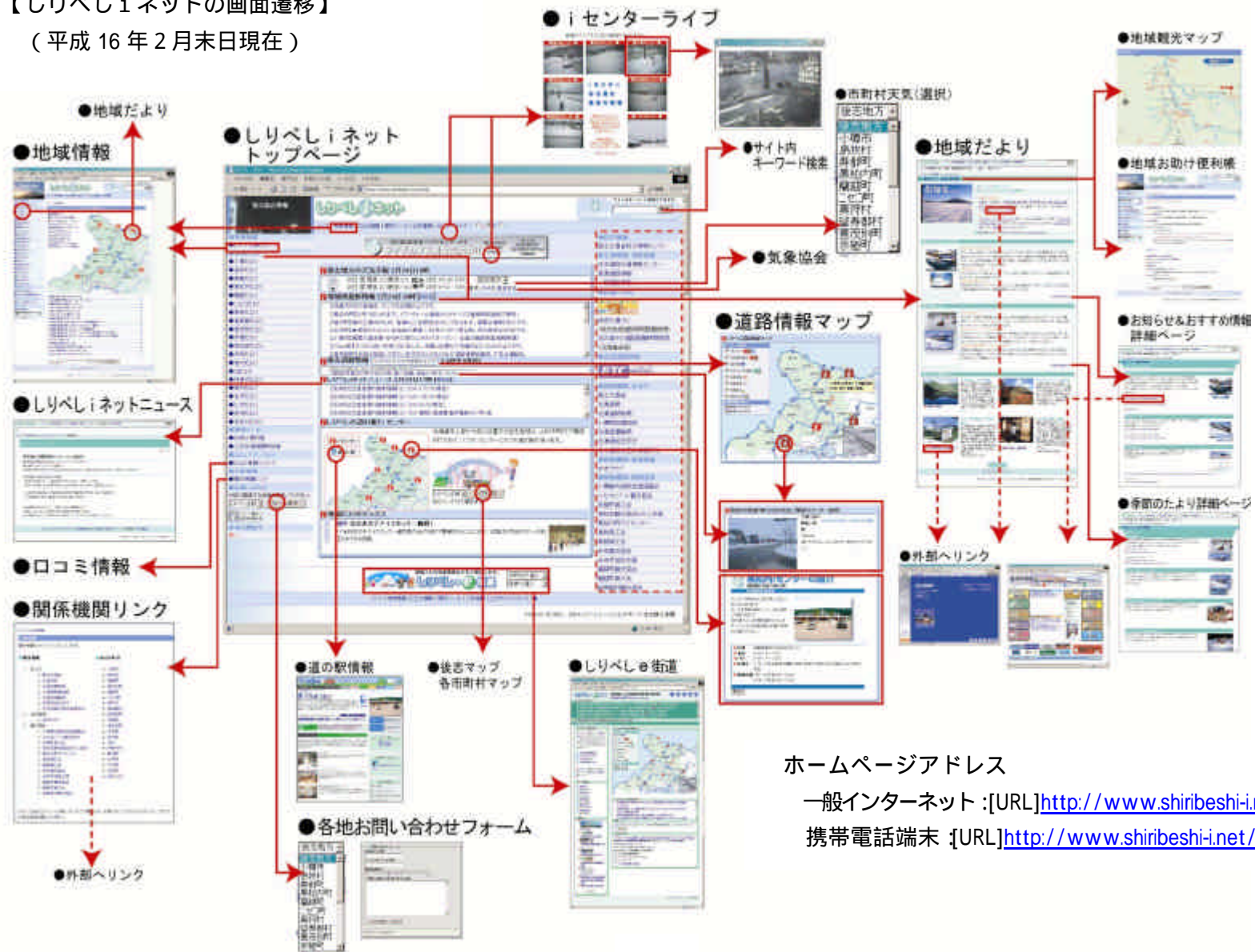
地域のコミュニティを活性化

- ・iセンターからの地域情報や行政情報を提供し、地域内の活動を活性化

【コンテンツ】

情報区分	情報項目	情報内容	
地域情報	市町村情報	観光ポイント情報	【地域だより】 お知らせ・ おすすめ情報
		イベント情報	行祭事・イベント
		体験活動情報	季節のたより
		地域だより	自然景観 史跡・名所 その他特徴的な建造物等
		地域マップ	アウトドア活動(カヌー、乗馬など) 文化・創作活動(陶芸体験など)
		ライブカメラ	地域トピックス、季節の便り (小樽だより、島牧だより...)
広域情報・ 関連情報	広域観光情報	地域トピックス、季節の便り 7センターからのライブ映像	
	便益情報	広域観光ルート	地域トピックス、季節の便り
		広域マップ	地域トピックス、季節の便り
		便利ツール	お助け便利帳 (病院、コンビニ、ガソリンスタンド、公共施設...)
		公共交通機関時刻表	JR時刻表・バス時刻表
コミュニケーション ツール等	掲示板	しりべしiネット紹介、活動内容紹介	
公的 情報	気象情報	後志地方の天気予報	後志地方ピンポイント天気予報
		道路気象情報	道路気象情報
	道路情報	道路走行情報	冬季の冬道情報
		時間距離検索	時間距離検索(しりべし道ナビ)
		後志管内通行規制情報	工事等による通行規制
防災情報	台風・地震・津波・河川情報	台風・地震等の災害情報	

【しりべしiネットの画面遷移】
 (平成16年2月末日現在)

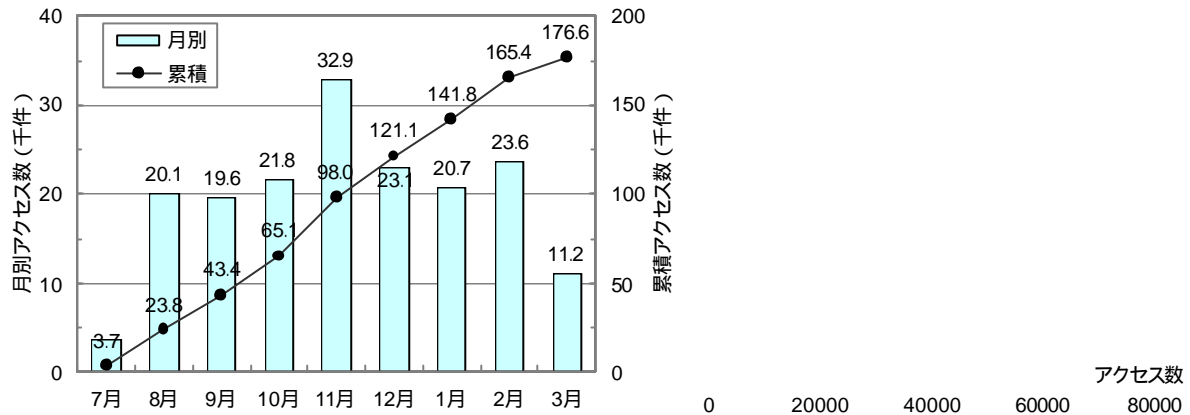


ホームページアドレス

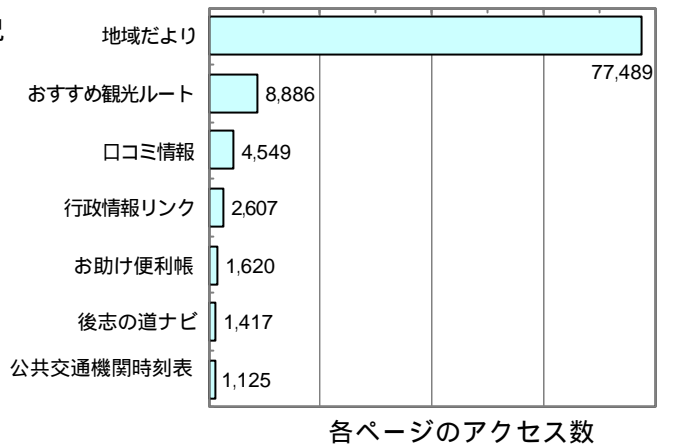
一般インターネット :[URL]<http://www.shiribeshi-i.net/>

携帯電話端末 :[URL]<http://www.shiribeshi-i.net/>

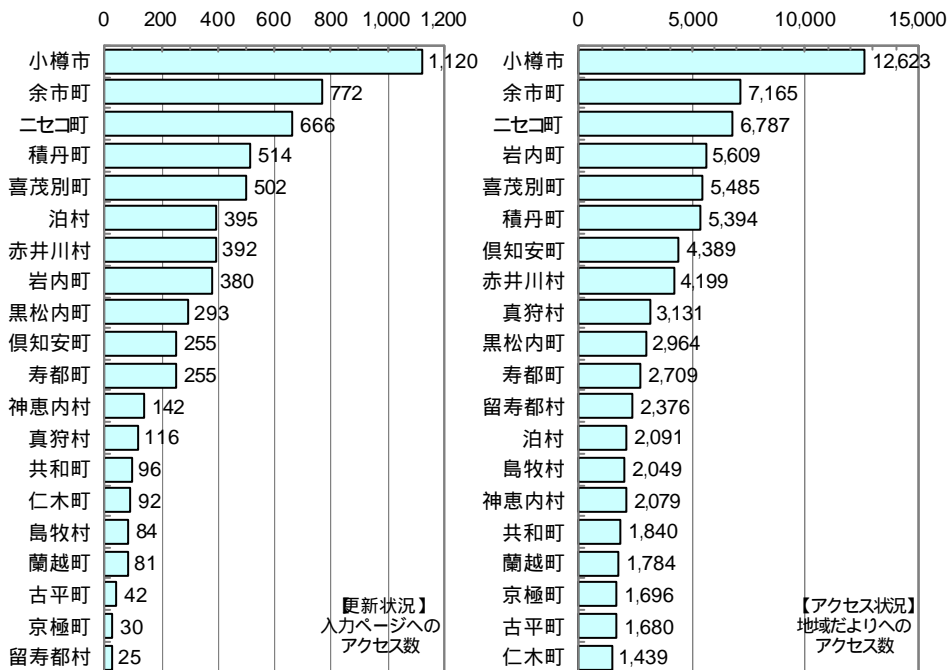
(2) アクセス状況(平成15年7月20日~平成16年3月15日)



トップページのアクセス状況



各ページのアクセス数



地域だよりの更新状況とアクセス数

2 - 3 地域体制構築実験

(1) 幹事会 (略称 : しりべし i ネット & i センター連絡会議) の開催

【 幹事会の開催概要 】

	開催日	開催場所	主な検討内容
第1回	7月16日	小樽市 小樽運河プラザ	幹事会の運営方法について センター交流会の開催について モデル市町以外の13町村の対応について サイトのコンテンツ及びデザイン 商業情報の取り扱いについて
第2回	8月7日	積丹町 文化ホール	センターの現状と課題について サイトの修正方向 (トップページリニューアル) 今後の地域体制づくりについて
第3回	9月17日	喜茂別町 中山峠「森の美術館」	サイトの今後の作業内容について サイト上での商業情報の取り扱いについて 平成16年度以降の推進体制について
第4回	10月29日	余市町 経済センタービル	作業状況の確認と今後の主な作業について 官民協働メニューの実施について 16年度の事業計画について サイト上での商業情報の取り扱いについて
第5回	1月20日	小樽市 小樽運河プラザ	本年度実験の総括 官民協働実験 (冬道実験) の実施について サイトの今後の枠組みと次年度事業の進め方
第6回	2月18日	倶知安町 文化福祉センター	サイトの今後の取り組み内容について 冬道実験の経過報告と今後の方針について 16年度事業 (官民協働事業) について
第7回	3月23日	ニセコ町 ホテル甘露の森	15年度成果の報告 16年度以降の幹事会のあり方について

開催状況



7月11日 第1回幹事会の状況



9月17日 第3回幹事会の状況

(2) iセンター交流会の開催

【iセンター運用実験説明会及び交流会の開催概要】

開催日	開催場所	開催内容
iセンター運用実験説明会		
7月 1日	ニセコ町	<p>ニセコiセンター視察 運用実験説明会（実験の主旨・実施細目の説明）</p>  
第1回 iセンター交流会		
9月 9日 10日	岩内町	<p>岩内iセンター視察 講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演：他地域の観光案内の現状（旭川観光協会 上西多美子氏） ・研修：観光案内窓口の課題と解決策の共有（ワークショップ形式） <p>町内観光施設見学 （オートキャンプ場、郷土資料館、木田金次郎美術館）</p>  
第2回 iセンター交流会		
11月 11日 12日	黒松内町	<p>黒松内iセンター視察 講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修：スタッフから見る本実験の反省点及び今後の取り組み内容の洗い出し（ワークショップ形式） ・研修：画像講習（地域だより作成の際の基本的な考え方及び画像処理テクニックの講習） <p>黒松内町内観光施設見学 （オートキャンプ場、プナセンター、トワ・ヴェール）</p>  

2 - 4 官民協働体制構築実験

(1) しりべしiネットにおける関係協力機関情報の融合

【関係協力機関の情報との融合（平成16年2月現在）】



(2) 官民協働実験(冬道実験)の実施

【しりべしiネット上での冬道情報提供画面】

◆しりべしiネットTOP画面

◆LIVEカメラ映像
後志7つのセンターのライブ映像をみる事ができる。

◆後志道路情報
後志管内冬道情報がヘッドラインで表示される。「ヘッドライン」からは各地が発信する道路情報ページへ、**アイコン**からは、「しりべしふゆみち情報マップ」へ移動する。

◆しりべしふゆみち情報マップ

◆後志各地からの冬道情報提供ページ

地域から冬道情報が発信されたときは、赤い「アイコン」がマップ上に表示される。ただし、変わりやすい冬の道路情報のため、提供される情報は「4時間限定」で公開されることとする。
その他にも、
・道路規制情報 ・道路気象情報
・峠の情報 ・気象情報(注意報・警報) など、
後志を走行する際に必要な情報も全てマップ上に表示されるようにした。

【地域からの冬道情報提供画面】

1 国道229号積丹町付近の状況【積丹iセンター提供】

天候:雪
路面:凍結 2004年2月23日 15時52分 ← 基本情報

コメント
突然吹雪になったりします。風が強いため風のとおりのいい路面はアイスバーンになってきています。気温も下がってきたので、これからの路面は凍ってくると思います。小樽~積丹(余別)までは中央バスも通常通り運行しています。 ← コメント欄

↑ 写真

【コメント欄の具体的な例】

区分		コメント例
平常時	好天時	<ul style="list-style-type: none"> ・今日はとても天気が良くてドライブ日和。黒松内まで足を伸ばして見てはいかが？（黒松内） ・風がありますが太陽が出て明るいです。西日を受けて羊蹄山は顔を出しました。16：00～17：00には、サンセット羊蹄山が期待できそうです（喜茂別） ・現在は、晴れて暖かい日です。ドライブするには、絶好ですよ。スピードの出しすぎには注意して下さい（余市）
	天候変化時	<ul style="list-style-type: none"> ・3時頃から雪が降り出しました。道路は濡れている状態です。気温が下がる時間帯になってきましたので路面凍結にご注意下さい（ニセコ） ・雪がふってきました。これから気温が下がりますのでブラックアイスバーンに気をつけて運転願います（積丹）
	工事や事故による規制	<ul style="list-style-type: none"> ・寿都町の磯谷トンネル付近で交通事故があり、車両撤去のため、午前10時から通行止めです（島牧） ・交通規制情報。頂上から喜茂別側へ4kmで除雪、7km地点では道路工事により、片側交通規制があります（喜茂別）
荒天時	天候状況の補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・朝からの暴風雪は依然勢力が衰えません（余市） ・午後から雪も小降りになり、風も弱くなりました（泊） ・やっと天候が落ち着きました。いたるところで除雪車が作業しています（ニセコ）
	路面状況の補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・路面はシャーベットから圧雪状態に変わりつつあります。夜は凍った状態になると思われそうです（島牧） ・国道229号泊村方面は圧雪状態、積丹方面はシャーベット状態です（神恵内） ・また路面は圧雪状態でアイスバーンにはなっていません（小樽）
	視程（視界）	<ul style="list-style-type: none"> ・運河対岸の倉庫すら見えないほど視界が悪いです（小樽） ・猛吹雪で視界は30m以内（喜茂別） ・ただ今猛吹雪です。視界も50m程度です（ニセコ）
	規制情報	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌自動車道は通行止めで開通の見込みはありません（小樽） ・国道276号通行止め、吹雪・交通事故・交通情報等で確認してお出かけください（喜茂別） ・現在宿泊対象者のみ東山エリアの通行が可能になりました。片側1車線の通行となります（ニセコ）
	事故情報 渋滞情報	<ul style="list-style-type: none"> ・喜茂別iセンターから喜茂別側へ10km程下った地点で車両事故です（喜茂別） ・仁木から余市は渋滞はさほどではありませんが、トロトロ運転が続いています（余市） ・国道5号線は張碓峠付近の坂道でスリップ状態、渋滞しています（小樽）
	他の交通機関の 情報	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳空港も閉鎖状態！JR・中央バスのダイヤも大混乱（小樽） ・小樽から積丹（余別）までの中央バスは、通常どおり運行しています（積丹） ・道道余市赤井川線、仁木赤井川線は除雪が間に合わず、余市赤井川線はバスが運休しています（赤井川）
	安全運転の 呼びかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・湿った雪のため車体に雪が付着し、ワイパーが利かなくなることがあります（喜茂別） ・無理に運転するよりも、天候が落ち着くまで待機することをお勧めします（ニセコ） ・夕方から町民の雪かきが始まると思いますので、視界が悪いですから気をつけて走行してください（余市）

【冬道実験を通じてあげられた問題点と今後の方向】

問題点	今後の方向
<p>入力頻度 特に繁忙期では、通常業務と継続した入力（4時間更新）の平行作業は困難である</p>	<p>地域のできる範囲での対応 天候急変時や事故による交通規制、渋滞発生時の的確な入力体制の確立 好天時の工事規制情報、荒天時の道路情報など、状況に応じた情報内容の使い分け 通信員の獲得（掘り起こし）による持続的な情報発信体制の確立</p>
<p>継続した入力体制の確立 情報入力（労務及び通信料負担）の対価が、宣伝ページのみ（4時間消滅）では通信員獲得は難しい 個人入力者のメリットがない</p>	<p>通信員獲得に向けたソフト面の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業施設：宣伝ページの常時公開 ・個人： <ul style="list-style-type: none"> ・デジカメプレゼント ・一月分のパケット通信料に対する何らかの対価提供
<p>入力作業の複雑さ 入力時、前回の文字や画像の情報が入力フォームに残っていると、同じような内容の入力を再度行う時に便利である</p>	<p>修正フォーム（システム）の構築による入力作業の軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入力フォームにデフォルトで前回データが残るようなシステムに変更
<p>入力システムの不足 パソコンだけではなく、携帯電話からの入力フォームも必要である パソコン環境がない通信員への配慮が必要である</p>	<p>携帯電話での入力フォームの作成</p>
<p>表示方法の改善 規制情報（文字情報）が地図上で見ることができると便利である 天候や路面状況の経過を確認するためにも直近の情報は残す必要がある 事故情報などはiネット上で蓄積し、注意喚起地点として提供していくと情報の付加価値向上につながる 町内で複数の箇所から情報発信できるようにしたい</p>	<p>以下を考慮した表示方法やシステムの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規制情報の地図上での表示 ・天候や道路状況に対応したアイコン表示 ・事故情報や直近の道路情報を残す ・複数箇所からの情報表示 ・マップの見易さ
<p>情報内容の不足 JR・バス・航空機等の公共交通機関情報が不足している</p>	<p>公共交通機関事業者との連携強化</p>

2 - 5 広報・告知活動

【各種イベントへの参加によるデモンストレーション】

リンケージ・アップフェスティバル

日時：平成 15 年 9 月 6 日（土）・ 7 日（日）

場所：札幌大通公園 7 丁目

内容：端末設置による i ネットの体験、パネル展示による P R 他

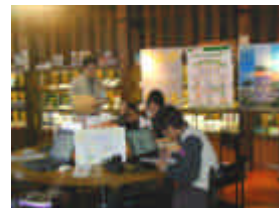


しりべし魅力展

日時：平成 15 年 10 月 11 日（土）・ 12 日（日）・ 13 日（祝）

場所：小樽運河プラザ

内容：端末設置によるしりべし i ネットの P R、実験パネル等による P R、WEB カメラによる 7 i センターの映像発信 他



【独自イベントの開催による P R】

i ネット交流会

< 第 1 回 i ネット交流会 >

日時：平成 15 年 10 月 11 日（土）

場所：小樽運河プラザ

内容：基調講演と意見交換会



< 第 2 回 i ネット交流会 >

日時：平成 16 年 3 月 25 日（木）

場所：倶知安町ホテル第一会館

内容：第 1 部（基調報告）

第 2 部（メッセージ交流）

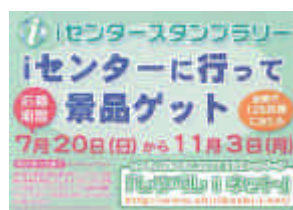


i センタースタンプラリー

実施期間：7 月 20 日～11 月 3 日

スタンプ設置施設：7 i センター

応募総数：1,128 件



【紙媒体による P R】

広報誌「ジュジュ」の発行

・創刊号・夏号・秋号・冬号

活動報告誌「しりべ i ネットニュース」の発行

・Vol. 1～Vol. 5



2 - 6 実験効果の検証

(1) アンケート調査の概要

目的

- ・ 今回の実験において構築した7 iセンター（小樽、喜茂別、黒松内、余市、積丹、岩内、ニセコ）とi ネット（HP）のツールがもたらす観光客への効果、満足度を把握する調査対象

調査項目

- ・ 情報端末の利用に関する項目（情報端末を利用した感想、個人属性）
- ・ 後志地域内での観光行動に関する項目（周遊観光スポット、観光行動の決定要因）

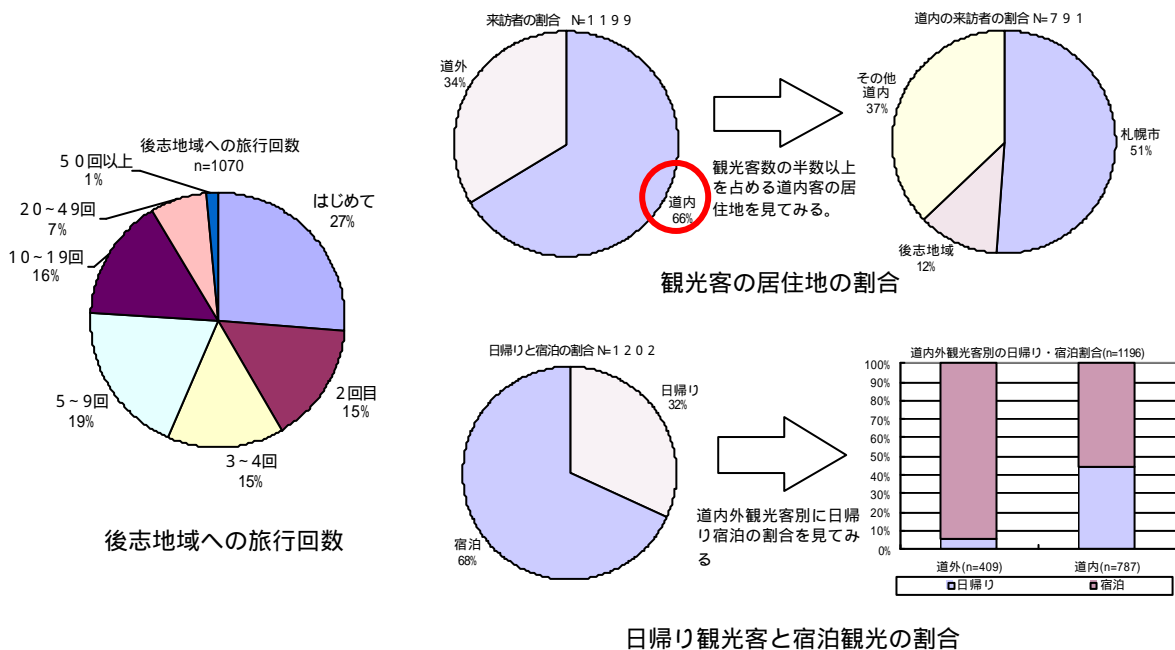
回収率

- ・ 33.8%（配布数 3,726 件、回収数 1,257 件）

(2) アンケートの結果

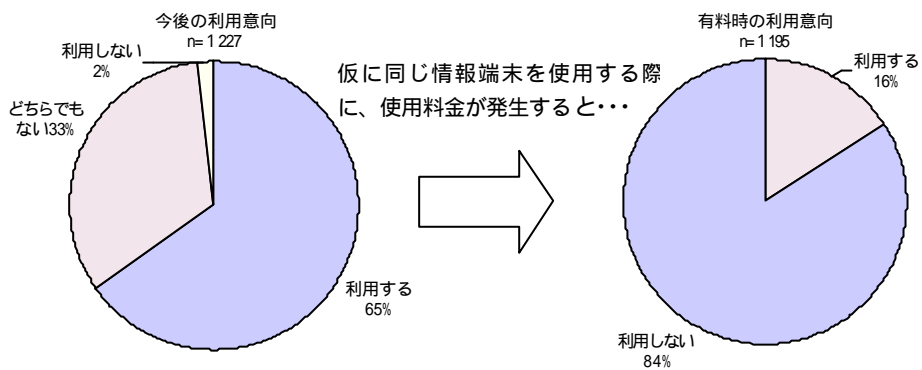
【観光客の旅行特性】

- ・ 後志地域への訪問回数では、初めて後志地域を訪れる観光客は約 25%であり、観光客の75%はリピータであり、後志地域の観光の特性を示している。
- ・ 観光客の居住地の割合は、道内からの来訪者が約 65%と多くその半数が札幌市内からの観光客である。
- ・ 日帰り観光客と宿泊観光客の割合は、宿泊観光客が約 65%と多く、道外の観光客はもちろん道内の観光客も宿泊して周遊している地域であることが示される。

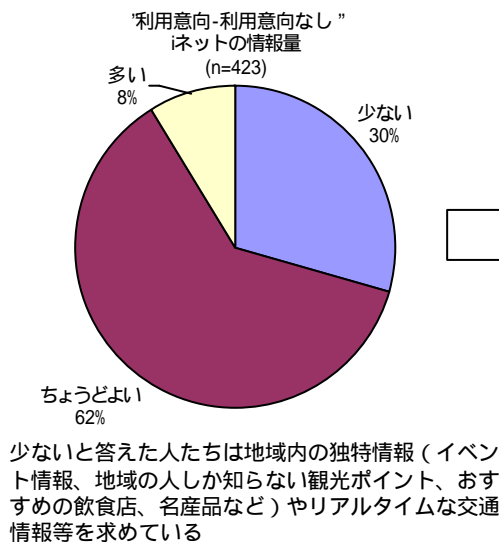


【i ネットツール（HP）の評価について】

- ・ i ネットツール（HP）の利用について、今後も利用したいは全体の 65%であり、情報が有料であった場合利用したいと答えた観光客は 16%であった。
- ・ i ネットツール（HP）について提供情報量が少ないと感じている観光客は全体の 30%であり、約 60%の人がちょうど良いと答えている。
- ・ 観光客が必要としていた情報の検索結果では、目的情報を見つけられなかった割合が高かった。この原因として周遊している観光客は、地域内の独特情報（イベント情報、地域の人しか知らない観光ポイント、おすすめの飲食店、名産品など）やリアルタイムな交通情報等を求めており、その情報が提供情報で不足していることによる。



i ネットツール（HP）の今後の利用動向



お勧めの飲食店・名産品情報	7
動的な観光、道路交通、気象情報	5
当日 今後のイベントやお祭り・行事	4
地元の人しか知らないような情報	2
地図閲覧	2
家族（子供）で楽しめる観光スポット	1
キャンプ場の予約状況	1
後志地域以外の情報	1
公共トイレ所在情報	1
温泉情報	1
事故情報	1

観光客が欲しい情報

【i ネットによる情報提供の効果（i ネットが観光行動に与えた影響）】

集計方法 【総サンプル数(単位)】	観光客単位で集計【88(人)】						
周遊観光時間 (移動時間を除く、観光スポットでの滞在時間)	<p>(時間) 周遊観光時間(1日平均)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>観光客タイプ</th> <th>周遊観光時間(1日平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i ネットの影響を受けなかった観光客</td> <td>5.27</td> </tr> <tr> <td>i ネットの影響を受けた観光客</td> <td>7.17</td> </tr> </tbody> </table>	観光客タイプ	周遊観光時間(1日平均)	i ネットの影響を受けなかった観光客	5.27	i ネットの影響を受けた観光客	7.17
観光客タイプ	周遊観光時間(1日平均)						
i ネットの影響を受けなかった観光客	5.27						
i ネットの影響を受けた観光客	7.17						
訪問観光スポット数	<p>(ヶ所) 1人当りの観光スポット訪問数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>観光客タイプ</th> <th>1人当りの観光スポット訪問数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i ネットの影響を受けなかった観光客</td> <td>3.03</td> </tr> <tr> <td>i ネットの影響を受けた観光客</td> <td>4.10</td> </tr> </tbody> </table>	観光客タイプ	1人当りの観光スポット訪問数	i ネットの影響を受けなかった観光客	3.03	i ネットの影響を受けた観光客	4.10
観光客タイプ	1人当りの観光スポット訪問数						
i ネットの影響を受けなかった観光客	3.03						
i ネットの影響を受けた観光客	4.10						
観光消費額	<p>(円) 観光消費額(1日平均) 約770円/日</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>観光客タイプ</th> <th>観光消費額(1日平均)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>i ネットの影響を受けなかった観光客</td> <td>7,361</td> </tr> <tr> <td>i ネットの影響を受けた観光客</td> <td>8,131</td> </tr> </tbody> </table>	観光客タイプ	観光消費額(1日平均)	i ネットの影響を受けなかった観光客	7,361	i ネットの影響を受けた観光客	8,131
観光客タイプ	観光消費額(1日平均)						
i ネットの影響を受けなかった観光客	7,361						
i ネットの影響を受けた観光客	8,131						

【アンケート結果から得られた課題】

i ネットによる情報提供の効果は、滞在時間、周遊コースの変化、観光消費額をみるとその影響が高いことが示された。

しかしながら、利用者からの課題として、i ネットで提供する情報内容について地域独特の情報やリアルタイムな交通情報等の提供などを含めた情報コンテンツの整理・提供があげられた。今後、これらの点を改良してより良いシステムとすることが重要である。

3 . 今後の課題と方向

3 - 1 実験成果のまとめ

本年度の実験の目標として掲げた次の事項について、実験の成果と課題をまとめると次のとおりである。

実験目的

「ドライブ観光の快適性の向上を図るための情報提供機能の高度化とそれを実現する官民協働体制の確立」

具体的な目標

- 1) 情報提供ステーション (i センター) 機能の向上とそのネットワーク化
- 2) 総合的な情報サイト (しりべし i ネット) の構築と運営
- 3) 以上を支える地域体制づくり
- 4) 関係行政機関との連携強化

(1) 実験目的の達成

i センター網の確立

7市町において情報提供ステーションが開設され、現地での情報提供・案内業務を開始した。これにより、管内における情報提供ステーション (i センター - / 観光案内所) 網が確立し、広域的な情報発信の基盤がつけられた。さらに、次年度からは新たに4町村で i センターが開設される予定であり、より一層の充実が期待されている。

情報共有ツールとしてのしりべし i ネットの誕生

後志地域の共有財産ともなる情報提供・共有のツールが誕生し、これにより後志の活発な情報発信・共有の可能性が広がった。

地域の情報を発信するヒューマンな仕組みの確立

このツールを地域で支える体制とともに、このツールを駆使して地域の情報を発信するヒューマンな仕組み (連携やルール) が確立した。

官民協働の情報提供体制の確立

実験検討部会、関係行政機関連絡会議等の開催により、国、道、市町村、関係団体との交流が進み、今後の i ネットの円滑な運営にとって必要な関係機関・団体の連携体制がつけられた。

以上のように、本実験を通じて後志地域におけるドライブ観光を快適にするための情報基盤、情報提供体制がつけられ、それらを通じた情報提供機能の高度化が図られつつある。ただし、これら情報基盤の有効活用による実質的な成果は、今後の運用継続の中で生まれてくるものであり、そのためにも事業継続に向けた効果的な取り組みが求められる。

一方、後志地域では後志の広域観光推進のための官民協働による「観光交流空間づくりモデル事業」が進められている。ここでは、「しりべしスローコリドー構想」として、住民参加型、官民協働型の新しい観光の推進をめざしている。しりべしiネットは、この構想のめざすところと一致するもので、本構想の中核事業としてその推進が期待されている。

(2) 各取り組み内容に対する成果と課題

情報提供ステーション（iセンター）機能の向上とそのネットワーク化

地域の実情にあわせた形で、本年度は7市町に、次年度からは新たに4町村にiセンターが開設され、その結果として全体の半数の市町村がその設置に協力してくれたことは大きく評価される。

各iセンターにはそれぞれパソコンならびに後志管内のパンフレットラックを設置し、情報ステーションとしての機能向上を図ったことで、そのサービス水準が向上した。

また、並行して行ったスタッフ交流会の開催等により、地域相互の情報交流、人的交流が活発化し、地域内情報ステーションの機能充実と相互連携が強化され、情報提供機能の高度化が図られた。

今後は、以上のような機能に加え、観光客のみならず地域住民が集えるようなコミュニティ機能など、より一層の充実が求められると考えられる。そのためにも、iセンターそれぞれの質の向上とともに、ネットワーク効果を高める取り組みを継続していくことが必要である。

総合的な情報サイト（しりべしiネット）の構築と運営

後志20市町村の協力により新鮮な情報を提供する「地域だより」が稼動した。これはしりべしiネットならではの地域情報として注目されている。

しかしながら、総合情報サイトが完成し実際に情報発信が行われたが、掲示板機能やコンテンツそのものはまだ不十分である。早急にコンテンツの充実を図っていくことが求められる。

特に、iネットの継続のためには、今後各市町村から地域情報が活発に発信されることが極めて重要である。そのためにも、各地域地域の事情を考慮し、無理のない形での継続的な情報発信の仕組みをネット上につくる必要がある。

また、公的情報として開発建設部の道路規制情報、気象協会のスポット天気予報をiネットに組み込むことができたが、一般へのわかりやすいインターフェースづくりという意味で、情報の表示方法にさらなる工夫が必要である。

地域体制づくり

i ネットの構築と運用を通じて、管内 20 市町村から地域の情報が定期的に発信される仕組みがつけられたことは大きな成果である。また、一方で、しりべし i ネット & i センター連絡会議が中心となり、管内 20 市町村の活発な情報発信と担当者の相互連携を積極的にサポートする体制もつくられてきた。特に、小樽、余市においては i センター運営会議が設立され、官民協働による情報収集、発信体制が築かれるとともに、その一環として地域の情報通信員が活動を開始している。

その一方で、しりべし i ネットや i センターから発信する情報をより新鮮で魅力的かつ継続的なものにするためには、上述のような情報通信員をはじめ地域内の幅広い層の人たちの参加が不可欠である。今後は、そうした人たちの協力を得ながら後志ならではの情報収集・発信の仕組みをつくっていくことが求められる。また、以上の仕組みづくりに加え、管内市町村・市町村観光協会担当者の人的交流を活発にし、本事業に対してさらに大きな理解と協力体制を築くことが必要である。

関係行政機関との連携強化

道路事業の広報活動や後志支庁の観光啓発活動などの事業を通じて、i ネットの存在をアピールし関係機関との連携を深めることができた。また、関係協力機関連絡会議から官民協働事業のメニューとして出された「冬道実験」の提案を、今回の実験事業の一環として取り上げ実施し、官民協働の情報提供の可能性が極めて大きいことがわかった。

ただし、情報提供等の官民連携事業は始まったばかりであり、その進め方等については両者まだまだ経験不足であり、これを継続することにより、官民相互のノウハウを蓄積していくことが必要である。さらに、情報分野のみならず、北海道の代表的な観光スタイルであるドライブ観光の総合的な振興策を官民相互の力で展開していくための基礎が構築されたと考えられる。

3 - 2 今後の事業継続の方向

過去2カ年にわたる本実験では、後志観光の振興方策として主に情報提供面からのアプローチを試み、人的ネットワークとともにiセンター、iネットという情報提供の基盤をつくることができた。今後は、これらの仕組みを有効に活用し、後志ならではの総合的なドライブ観光振興施策を展開していくことが求められており、具体的には大きく次の3つの方向から事業継続を図っていくものとする。

(1) 後志ならではの情報提供システムの運用と充実

今後、現地でのドライブ旅行者への情報提供をさらに充実していくためには、情報の量はもちろんのこと、その質の向上を目指す必要がある。これまでの実験で構築されたiセンター、iネット、地域体制等の後志の優位性を発揮し、さらに磨き上げる取り組みを推進していくこととする。

情報提供研修会の開催

iセンタースタッフを中心とした情報提供機能強化のための研修

季刊誌の発行

後志の四季の魅力を伝える宣伝誘致用チラシの作成・配付

観光マップの発行

後志の広域マップの作成・配付

イベントの開催

道央圏における宣伝誘致用イベント

その他キャンペーン等の実施

(2) 永続的な取り組みのための運営手法の検討と確立

これまでの実験で培ってきた仕組みを、今後も持続的に発展させていくためには、サイト管理費用をはじめ一定の継続的な運営費の確保が必要である。そのために、民間の商業情報サイトとの提携なども視野に入れながら、iネット・iセンターを活用した独自の各種収益事業を開拓するなど、永続的な取り組みのための運営手法の検討とともに、その体制を確立することとする。

事業実施用自主財源の確保

商業情報取扱の検討・試行、協賛者の確保など独自財源確保の検討・試行

永続的な実施体制のあり方

中核組織、各市町村組織、行政との関係のあり方などの検討

(3) 後志ならではの情報提供システムを活用した官民協働事業の推進

これまで築いてきた官民協働体制を生かして、観光インフラとしての道路の効果的な利活用を促進するための各種パイロット事業を実施するとともに、シーニックバイウェイ、北の道普請など各種道路景観・まちづくり事業との連携を強化し、後志ならではの情報提供システムを活用した官民協働事業を推進していくこととする。

地域が発信する道路・交通情報

15年度冬期実験の継続と新たな情報提供項目（渋滞情報など道路利用に関する地域だからこそ発信できる付加情報）の付加による総合的な道利用情報の共有・発信

社会資本の維持・活用への協力

道の駅や道路関連施設周辺におけ美化活動など環境維持への協力

大規模プロジェクトとの連携

エリア及び活動内容の類似する「シーニックバイウェイ北海道」との連携及び同構想推進への協力

社会資本整備検討における地域意見の集約

サインシステム整備、休憩施設整備、沿道景観整備などに関する検討や地域意見の集約・提供

後志地域の観光振興と本実験の今後の方向

